

「さんきゅう会の旅」所感

西宮市 西村時彦

「さんきゅう会の旅」も平成16年の6月「北海道道東への旅」を実施してから今回で15回(15年)になる。平尾兄の発案で同期入社仲間10名で定年後の親交を深めるために続けて来た。割安のツアーに加わって旅をするが同行の旅行者からは稀有の目で見られたり、羨望の目で見られたりして理性的な振る舞いをモットーにツアーを楽しんで来た。(時にはガイドにたしなめられたこともあった)

仲間には自己中がないこと、育ちが良いのか思いやりの心が豊かな人間ばかりの集まりである、それに付け健康管理に日頃から十分留意しているからこそその全員参加で継続している。北から南へと観光地を巡ったがやはり友人の小池兄が札幌に居を構えている事で、北海道旅行が6回と魅力の地となっている。昨年も小池兄の「快癒祝いの札幌ウオーキング」を楽しんだ。

今年は当初から世話役を務めて頂いた平尾兄から榎並兄に幹事をお願いして格安一泊二日2万円の旅「源泉かけ流しの宿下呂温泉・上高地・飛騨高山二日間」になった。大阪からは近場の下呂・飛騨高山だが10年近く行く事もなかった。JR駅も町の雰囲気も行ってみれば様変わり、観光客も海外からの旅行者が多い事に時代を感じる。上高地の散策は前日の雨が上がって快晴になり梓川沿いのシラカンバ・カラマツ・エゾヤナギの新緑が目にも優しく輝き、木道を歩くとどこからかウグイスの音色が聞こえて心身とも癒してくれた。なお立ち振る舞いは脚・腰・肩等経年変化の体調を口にするが、知性・思考力の低下はない様で世情分析も的を射ている。次回も全員参加ができる様日々健康に留意して過ごしたいと願う。。。